

## 「5 年経験者研修から見えてきたこと」

中学部 嘉古田 陽子

### 1 はじめに

教員となり 6 年目の今年度、「5 年経験者研修」に参加した。初任者研修以来の教育センターでの研修。同期採用の先生方と久しぶりに再会したことも重なり、改めてこれまでの自分自身を振り返ることと、今後成長するために必要なことは何かを考える機会となった。研修内容をまとめる中で、学びを整理していきたい。

### 2 研修の概要

#### (1) 研修の目的

本研修の実施要項には、次のような目的が記載されていた。

新規採用後 5 年を経過した教諭に対して、教職への誇りや情熱、教職員としての使命感と学び続ける姿勢を持つ教師としての資質を高めるとともに、若手教師のメンタ一（助言者）としての自覚を持たせ、職務遂行能力の一層の向上を図る。

この文面を読んだとき、経験を積み始めてきた中で「今一度、初心を思い出すこと」と、経験を積んできた今だからこそ、「助言者」にもなることを自覚する時期が、5 年経験者である私たちだということを認識した。

研修の最初に、評価書で自己分析をした。診断項目に沿って評価をしていくと、今の課題が少しずつ見えてきた。その評価をもとに、研修時の教科等指導研修に向けた取組を行うことにした。

#### (2) 研修の内容

5 年経験者研修は、以下の内容で行われた。

回	開催月	研修内容
1	5 月	基礎的指導研修 I 「セルフマネジメント」 基礎的指導研修 II 「学校マネジメント」 基礎的指導研修 III 「学級経営」 基礎的指導研修 IV 「生徒指導」
2	6 月	教科別指導研修 I (特別支援学校) 基礎的指導研修 V 「人権教育の推進」 基礎的指導研修 VI 「教育コーチング」
3	7 月	教科等指導研修 II (特別支援学校) 教科等指導研修 III (特別支援学校)
4	6 月～ 9 月	教科等指導研修 IV (特別支援学校) ※ e ラーニングによる個人研修
5	10 月	教科等指導研修 V (特別支援学校) 教科等指導研修 VI (特別支援学校)

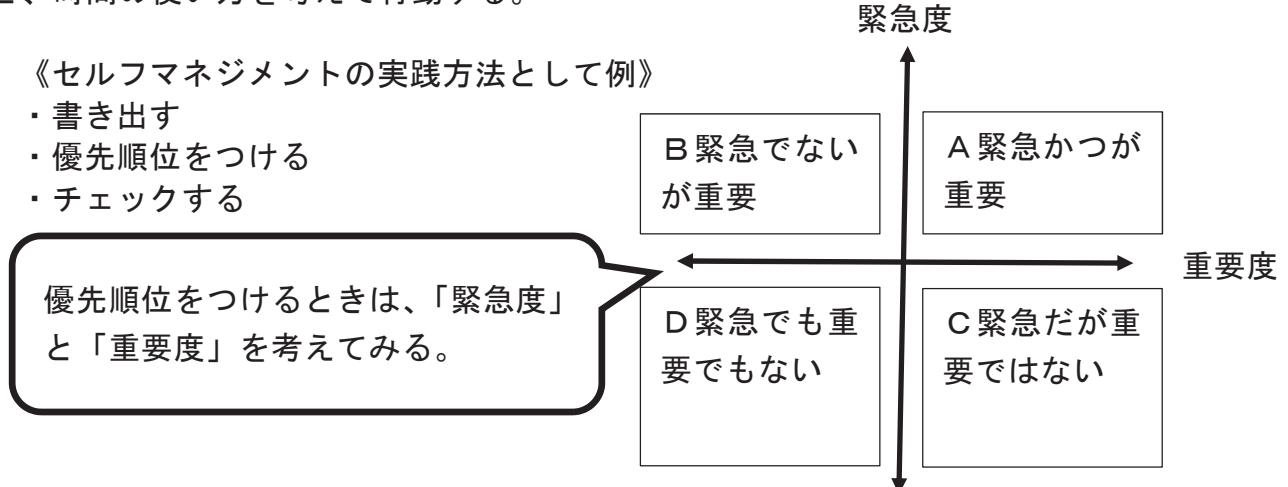
#### (3) 全体研修－「セルフマネジメント」・「教育コーチング」－

全体研修では、毎回さまざまなテーマについて、先生からの講義や研修者同士の協議を行い、理解を深めることができた。今回は、2 つの研修について紹介したい。

### **セルフマネジメント**（県立教育センター 主管兼室長 赤峯 達雄先生）

セルフマネジメントで大切なことは、「己を知ること」である。自分の長所・短所、得意な仕事のやり方、そして自分の価値観を知ることが必要とされ、そこから自己管理につなげていく。

セルフマネジメントをするうえでは、時間の管理（タイムマネジメント）が重要となる。仕事では、どの優先順位で仕事を進めていくのか、時間内にすることは何かなど、時間の使い方を考えて行動する。



また、もし自分でできないようなことが起きた場合は、人に「任せる」（頼る）という気持ちを持つことも大切である。そのためにも、自己分析から自分の強みや弱みを知ることと、チームで仕事をする意識は高めていきたい。職場でお互いがサポートしあえる環境や時間を生み出していくために、まずは「セルフマネジメント」力をつけていくことを目指して行動する。

### **教育コーチング**（別府大学文学部 佐藤 敬子先生）

「コーチ」とは、本来「馬車」を意味する。「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」という意味合いから、「相手のすぐれた能力を引き出し、前進をサポート」する存在の「コーチ」に繋がっている。コーチには、相手をサポートし、自発的な行動に繋げることができるよう、そして短時間で成果が上がるよう継続的にサポートしていくために「コミュニケーションスキル」が必要となる。それが「コーチング」である。

#### 《コミュニケーションで意識すること》

- ・「長さ」ではなく「回数」…だらだらと話して1往復で終わるやり取りよりも、短い会話を2往復3往復とすることで、お互いのことをより深く知る機会が増える。
- ・声のトーン、ボリューム、素晴らしい表情
- ・応答は「プラス思考」で返す…「しつこい」も、見方を変えれば「粘り強い」と表現できるように、相手に対する言葉かけを「プラス」にする。
- ・相手を「認める」…相手のしたことや存在が、自分（たち）にどんな影響を与えているのかを伝える認め方をする。
- ・「否定質問」より「肯定質問」  
「何がわからないの？」⇒「どこまでわかった？」
- ・「過去質問」より「未来質問」  
「どうしてこんなことになったの？」⇒「これからはどうしたらいい？」
- 「コーチング」は、「ヘルプ」より「サポート」する意味合いを持つ。相手に成長

ポイントの気づきを促し、成長を手助けするという気持ちでかかわることを大切にすること。

#### (4) 個人研修

個人研修では、研究授業と授業研究会に向けての一連の計画・準備をタイムマネジメントしながら取り組んだ。全体研修で学んだセルフマネジメントを実践する機会となった。

##### 目標設定

研究授業を行うにあたり、私が課題として挙げたことは2点ある。そして、その課題を解決するための目標を立てた。

###### ①生徒への発問や説明

- ・生徒の理解に繋がるように、簡潔な発問や要点をおさえた説明をする力を高める必要がある。

【目標】生徒の理解につながるような発問や説明を意識して授業することができる。

⇒教材研究を行い、単元の中で生徒につけたい力を明確に持つ。それをもとに、授業中の発問や説明事項を考える。

###### ②授業の構成

- ・生徒が関心を持って学習することができるような授業の構成を組み立てる力が必要である。
- ・教師主導の時間がが多い授業にならないように、授業での目標をおさえ、計画を立てる必要がある。

【目標】生徒の実態に応じた授業計画を立てることができる。

⇒個別の教育支援計画やこれまでの学習の記録などを参考に、授業計画を立てる。  
(教室環境や生徒の見え方に関する支援を含む)

##### 研究授業にむけて～計画・実践～

研究授業：中学部2年 国語「敬語」(光村図書出版株式会社『国語2』)

研究授業実施日：平成27年9月18日（金）

2時間目（9:50～10:40）

授業研究会実施日：平成27年9月18日（金）

15:45～16:20（35分）

##### 【計画】

- ・授業日当日は授業に集中して取り組むができるように、早めの計画や授業研究を行うことを心がけた。

⇒研究授業実施について学部や管理職に相談

##### 講評の依頼

授業研究（授業の目標設定・展開、板書計画、主発問など）

- ・授業研究会の内容（進行、協議の柱など）について、どのようにすれば、参加した先生方も充実した研究会になるのかを考えた。

⇒進行役を学部の先生に依頼。

協議の柱について、学部の先生を中心に相談。

## 【実践】

### 《生徒の実態》

- ・中学部2年、女子生徒
- ・弱視（先天性白内障）
  - 視力 遠距離視力（右：0.05、左：0.06、両眼：0.06）
  - 近距離視力（右：0.05、左：0.06、両眼：0.06）
  - 最大視認力（0.2／1.5cm：左）
- ・幼稚部から本校に在籍している。
- ・日差しが強い日などはまぶしさを強く感じることがある。
- ・学習では、各教科22ポイントの拡大教科書を使用している。
- ・視覚補助具は、拡大読書器やルーペ、単眼鏡を使っている。今年度1学期から、板書をタブレットで拡大して見たり、カメラ機能で撮影して記録したりすることも取り入れている。
- ・学習では、教師と1対1の授業がほとんどである。
- ・交友関係は、同世代の異年齢でのかかわりにおいて、中学校でみられる「先輩・後輩」といった関係よりも、友達のつながりでかかわる姿を見ることが多い。

### 《授業の実際》

#### 研究授業の内容（概要）

##### 1 前時の復習・本時の目標を確認する。

- ・敬語（丁寧語・尊敬語・謙譲語）について、前時にまとめた内容を確認する。
- ・黒板に書かれた本時の目標を、視覚補助具を活用しながらノートに視写する。

本時の目標：敬語の働きや意義を知り、話の中で使うことができる。

##### 2 尊敬語と謙譲語の例を確認する。

- ・教科書の尊敬語と謙譲語の使用例の表を見て、言葉の表現がそれぞれ異なることを知る。

##### 3 敬語の働きを考える。

主発問「どうして敬語を使って話す必要があるんだろう？」

- ・敬語を使って話すことの意義を考える。
- ・教師と敬語を使う意義を確認する。

##### 4 敬語を使って話す

- ・パワーポイントに出てきた場面や状況を踏まえて、敬語を使って話す。

場面①部活で演奏している曲を紹介。

場面②部活で参加した大会を報告。

場面③文化祭へ招待、待ち合わせ。

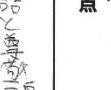
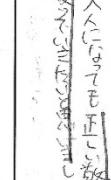
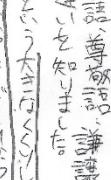
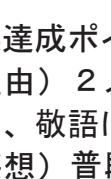
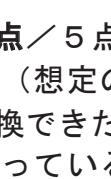
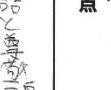
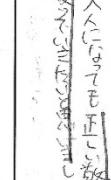
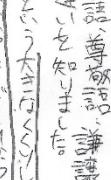
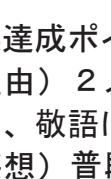
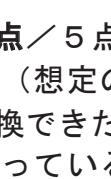
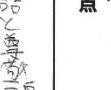
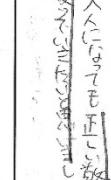
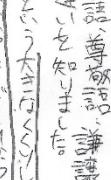
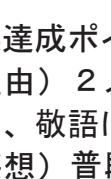
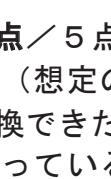
##### 5 自己評価をする。

- ・教師と本時を振り返る。
- ・本時の目標に対する達成度を評価する。
  - ①目標は達成できたか（5点満点、理由も含む。）
  - ②学んだこと、感想。



単元では、「敬語」の種類（丁寧語・尊敬語・謙譲語）の理解と、想定した場面での敬語を話す活動をとおして、敬語を使う意義について考えた。

授業を終えての評価は、次のとおりである。

生徒の目標に対する達成度	手だての妥当性																				
<p>◎本時の目標 「敬語の働きや意義を理解し、話の中で使うことができる。」</p> <p>■生徒の自己評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">% (金)</th> <th style="text-align: center;">9/17 (木)</th> <th style="text-align: center;">授業日</th> <th style="text-align: center;">敬語 自己評価シート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">● できること で使うこと ができます。 ● 知りや 意義の 働き</td> <td style="text-align: center;">● 谦讓語 いふこと が理 解す きる。</td> <td style="text-align: center;">● 敬語 ・尊 敬語 （丁寧）</td> <td style="text-align: center;">● 目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由 </td> <td style="text-align: center;">5 点</td> <td style="text-align: center;">理由 </td> <td style="text-align: center;">4 点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由 </td> <td style="text-align: center;">5 点満点</td> <td style="text-align: center;">理由 </td> <td style="text-align: center;">5 点満点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学んだこと・感想 </td> <td></td> <td style="text-align: center;">学んだこと・感想 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>目標達成ポイント（5点／5点満点）</b></p> <p>(理由) 2人の先生と（想定の場面で）話して、敬語に自分で変換できたと思うから。</p> <p>(感想) 普段学校で使っている敬語を意識して話すと難しかった。大人になっても正しい敬語を使っていきたい。</p> <p>⇒生徒の自己評価から、目標に対して意欲的に学習することができたことがわかった。</p>	% (金)	9/17 (木)	授業日	敬語 自己評価シート	● できること で使うこと ができます。 ● 知りや 意義の 働き	● 谦讓語 いふこと が理 解す きる。	● 敬語 ・尊 敬語 （丁寧）	● 目標	理由 	5 点	理由 	4 点	理由 	5 点満点	理由 	5 点満点	学んだこと・感想 		学んだこと・感想 		<p>(○成果、●課題)</p> <p>○授業時間の目標を明確にし、授業後に自己評価する時間を確保することで、生徒自身が学習に目的をもって取り組むことができた。</p> <p>●敬語の働きについて過度な説明をしきすぎたことで、生徒に敬語の種類を意識させすぎた。</p> <p>○主発問により、生徒が敬語の意義を考え、発表することができた。</p> <p>●参観の先生が聞き手となり、場面を想定して敬語で話すという活動に取り組んだ。いざ取り組んでみると、生徒は敬語を意識しそうで難しいと感じた。敬語を意識するという点ではよかったですと思う部分もあるが、他に妥当な方法もあったのではないかと感じた。</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①敬語の働きを理解して、使おうとする。</li> <li>②想定した場面を身近なこととして捉え、敬語を使おうとする。</li> </ul> <p><b>【評価基準】</b></p> <p>A : 敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）の違いを理解し、場面や状況を考えて敬語を話に活かすことができる。（ノート、観察）</p> <p>B : 教科書等で確認しながら、敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）の違いをおさえ、話にもいかそうとする。（ノート、観察）</p> <p>■教師の評価…評価B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の働きに関しては、3種類の敬語の違いを意識することで混乱している様子もあったが、想定した場面での敬語使用では、聞き手に対して丁寧に話そうとする気持ちと、正しい敬語で表現しようとする気持ちが伝わってきた。</li> <li>・敬語の意義に関しては、主発問に対して「礼儀だから」「年上の人には敬意を示すため」という敬語の意義を押さえた言葉が出てきた。</li> </ul>
% (金)	9/17 (木)	授業日	敬語 自己評価シート																		
● できること で使うこと ができます。 ● 知りや 意義の 働き	● 谦讓語 いふこと が理 解す きる。	● 敬語 ・尊 敬語 （丁寧）	● 目標																		
理由 	5 点	理由 	4 点																		
理由 	5 点満点	理由 	5 点満点																		
学んだこと・感想 		学んだこと・感想 																			

## 《授業研究会》

授業研究会の進行では、事前に司会者の先生と打合せをした。協議の柱「生徒が主体的に考えるための授業の展開や発問の工夫」について、発言者が最初に話す際の負担（緊張）感を減らし、活発な協議ができるように、まずは授業者自らが考えを述べた。続いて参加者から経験談や提案、意見をいただくことができ、活発な意見交換・情報共有の場となった。

立場に応じた敬語の重さを学んでいけたらいいな。

「日常の中で敬語を指導する意識」をもっと教師一人一人が大切にしよう。



## (5) e ラーニング

研修中、指導主事の先生や研修参加者の先生と熊本県立教育センター内の「教材等共有システム」をとおして意見交換・情報交換を行った。特に研究授業前は、インターネット上で指導案を見合い、お互いに助言しながら工夫・改善を繰り返した。おかげで主観的な考えに偏ることなく授業内容を考えることができた。また、研修者同士で励まし合いながら取り組むこともでき、心強く感じながら教材研究と向き合うことができた。

## 3 研修を終えて感じた成果と課題

### 【成果】

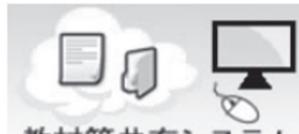
- ・「タイムマネジメント」を意識して行動することができた。「自分の弱み」を認めることが、周りの人と協力する心の余裕にも繋がることも感じることができた。
- ・「学習指導要領や生徒の実態を踏まえて学習目標を設定すること」「学習指導案でのわかりやすい表現」「評価の具現化」などを意識して、授業研究に臨むことができた。
- ・今回初めて研究授業や授業研究会に向けたすべての計画を自分で立てたことで、「マネジメントする」ことの重要性を実感することができた。

### 【課題】

- ・「セルフマネジメント」力はまだまだ不足していると感じている。引き続き自己分析をしながら、自分に適したマネジメント方法を見出したい。
- ・研究授業で実践したことに対して、授業研究会でアドバイスをいただき、生徒の学習について協議できた時間は、改めて大切だと感じた。このような時間を日常の中で確保していくことが、教師が生徒に対する学習や支援を共通理解することにつながるのだと感じた。

## 4 おわりに

これまででは、先輩先生のアドバイスや模倣、書物の実践例を参考に授業や支援に臨むことが日常だった。しかし、今回の研修で、これまでの経験から得た成果や失敗を肥やしに、「自分らしさ」を出していくことが大切だと感じた。「自分らしさ」を出すためには、自分自身を知ることが欠かせない。そして周りからのアドバイスに耳を傾ける心



教材等共有システム  
(熊本県立教育センター  
HP から)

の余裕も必要である。自分らしく過ごすことができるよう、「セルフマネジメント」「タイムマネジメント」をしながら、日々の職務に努めたい。その姿勢で過ごすことが、今後「若手職員のメンター」としての成長に繋がるのだと自分に言い聞かせながら、引き続き自己研鑽をしていこうと思う。

#### 参考資料・ホームページ

- ・平成27年度県立学校（県立中学校を除く）5年経験者研修実施要項
- ・平成27年度県立学校5年経験者研修（第1回）資料
- ・平成27年度県立学校5年経験者研修（第2回）資料
- ・熊本県立教育センターHP（<http://www.higo.ed.jp/center/>）